

援農隊マッチング支援事業

～タスク分析レポート～

2017年3月6日

株式会社パソナ農援隊

目次

1. 表紙
2. 目次 (当ページ)
3. データ内容一覧
4. 調査概要
5. 集計結果
 - I. 単純集計
 - a. 基本属性
 - b. 設問項目
 - II. クロス集計
 - a. 援農品目種類 × 7項目
作業難易度 | 援農必要時期 | 援農必要期間 | 援農作業時間
事前研修の有無 | 事前研修以外の必要有無 | 報酬有無
 - b. 援農作業内容 × 7項目
作業難易度 | 援農必要時期 | 援農必要期間 | 援農作業時間
事前研修の有無 | 事前研修以外の必要有無 | 報酬有無
 - III. 補足設問項目
 - a. 地域別分布
 - b. 都道府県別分布
 - c. 援農品目一覧

データ内容一覧

<基本属性>

1. 援農品目種類 (単一回答)
2. 援農作業内容 (複数回答)

<設問項目>

1. 援農作業難易度 (単一回答)
2. 事前研修の必要有無 (単一回答)
3. 事前研修以外の知識・経験の必要有無 (単一回答)
4. 1回の援農作業時間 (単一回答)
5. 援農必要時期 (複数回答)
6. 援農必要期間 (単一回答)
7. 援農必要人数 (単一回答)
8. 援農形態 (有償・無償) (単一回答)
9. 報酬以外の手当有無 (複数回答)
10. 援農者層 (複数回答)
11. 援農者募集方法 (複数回答)

<補足設問項目>

1. タスクの地域 (単一回答)
2. タスクの都道府県 (単一回答)
3. 援農品目 (単一回答)

調査概要

調査目的

「農家ではたらくをもっと身近に」
当事業コンセプトの実現には生産者と援農者の相互理解、並びにマッチング精度の向上が不可欠です。特に「人材不足」「担い手不足」が深刻化する農業において、援農者の「農作業に対する理解」を深めることは極めて重要です。当調査では生産者による援農者募集時の「タスク（≡作業内容）」を分類、整理、分析し、援農者の方々が農作業を理解する際に資する一助となれるデータの構築を目的とします。

調査方法

各生産者、並びに各生産者のとりまとめ機関にアンケートファイル（MSエクセル）を配信し、それらにご記入・ご返信いただく形式にて実施いたしました。その後、調査専門会社並びにパソナ農援隊による各設問項目の分類、整理、分析を実施し、当ファイルを制作いたしました。

調査期間

2017年〇月〇日から2017年●月●日の期間に収集したアンケートデータを、2017年2月16日から2017年3月3日までの期間に収集、整理、分析を実施いたしました。

その他

グラフ化にあたっては「単一回答」は全体(100%)に対する割合をビジュアルで可視化しやすいように円グラフ(各%の合計が100%)を採用し、「複数回答」は横棒グラフ(全体の何%がその解答を選んだかを可視化)を採用しております。

有効回答数(タスク数)

240件 ※240タスク、つまり援農者が必要な「240作業」とご理解いただけます。

集計結果

単純集計：基本属性

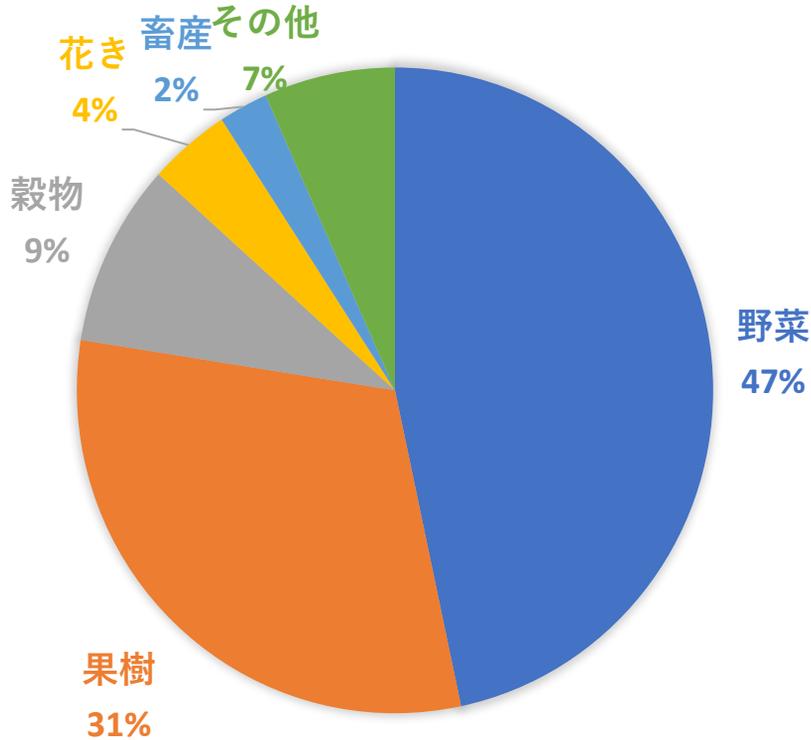
単純集計：設問項目

クロス集計：援農品目種類 × 7項目

クロス集計：援農作業内容 × 7項目

単純集計：補足設問項目

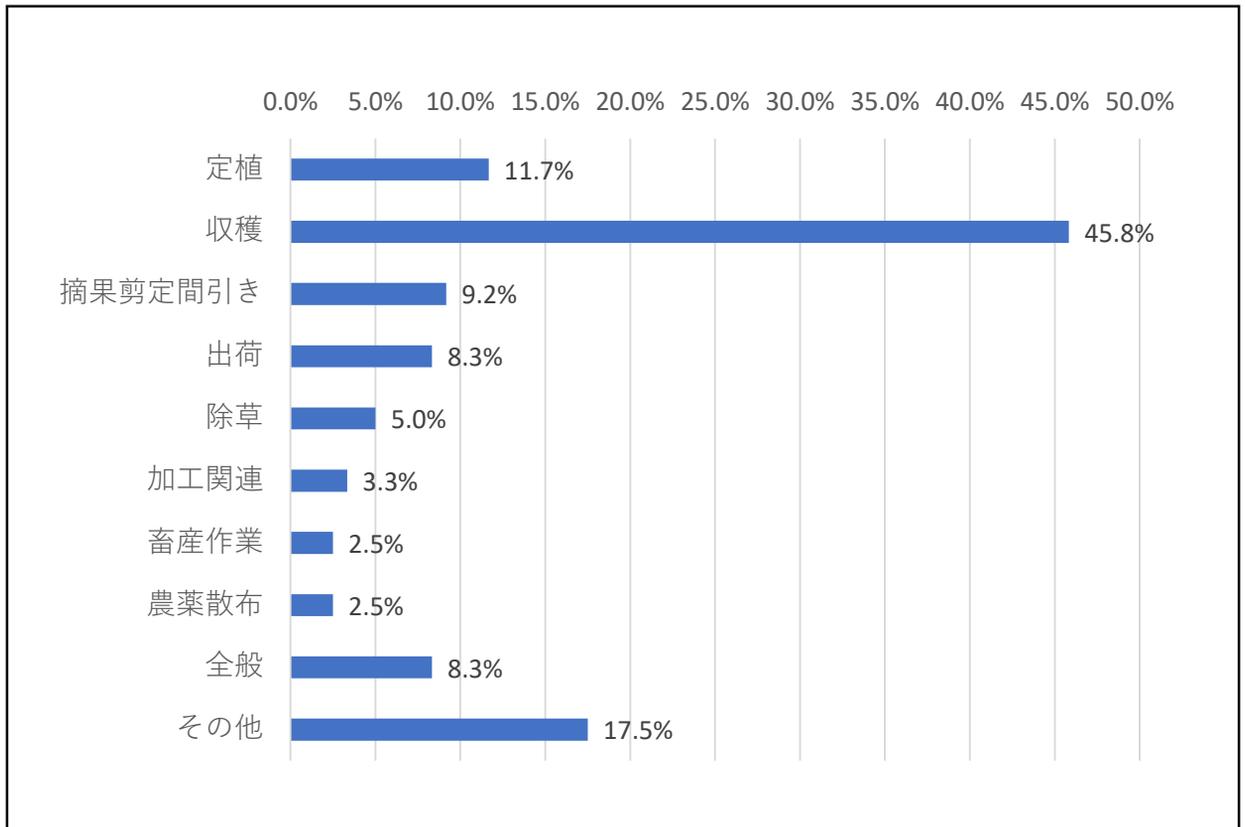
基本属性①：援農品目種類



- 野菜が最も多く全体の47%をしめる
- 果樹が31%と二番目に多く、野菜と果樹で全体の約8割をしめる

今回の対象タスク・作業240件においては野菜と果樹が全体の8割をしめ、それぞれ47%、31%の占有率となっている。野菜や果樹に対する基礎知識や経験を有する援農者は援農の機会を比較的得やすいと言えよう。 ※さらに詳細の各品目単位での分布については補足データをご覧ください。

基本属性②：援農作業内容



- 収穫が最も多く全体の約46%をしめる
- 収穫以外の作業については10%弱でほぼ均等に分布

今回の対象タスク・作業240件の作業内容の分布をみると、収穫作業が圧倒的に多く全体の約46%をしめている。対象品目によっては必ずしも重労働ではないが、高齢化に伴う「体力面の不安」や慢性的な「人手不足」などが背景にあると考えられる。援農にあたっては知識やスキル等が備わっていることも勿論望ましいが、ある一定の体力を有していることも非常に重要であることが伺える。

集計結果

単純集計：基本属性

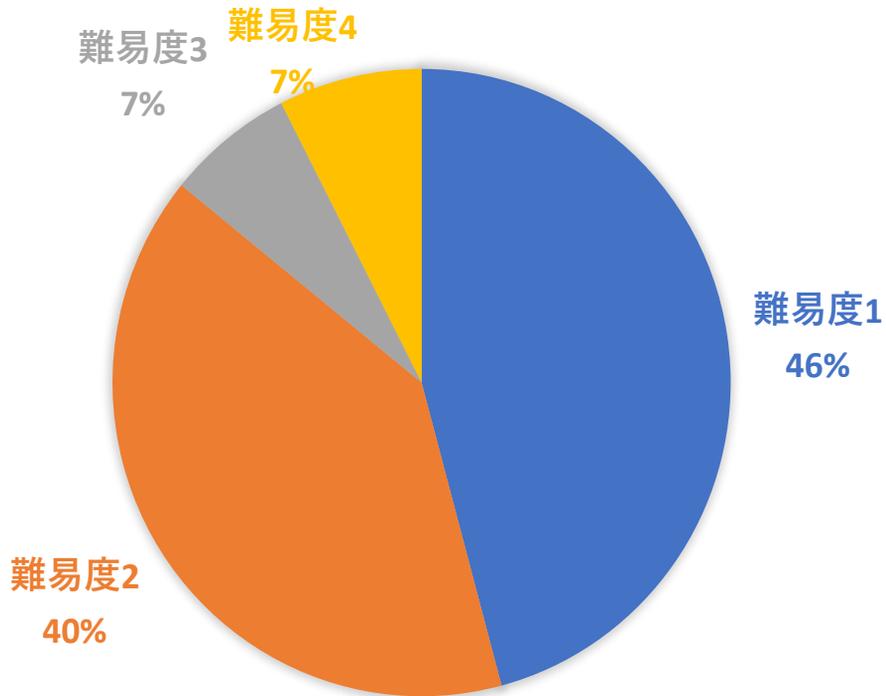
単純集計：設問項目

クロス集計：援農品目種類 × 7項目

クロス集計：援農作業内容 × 7項目

単純集計：補足設問項目

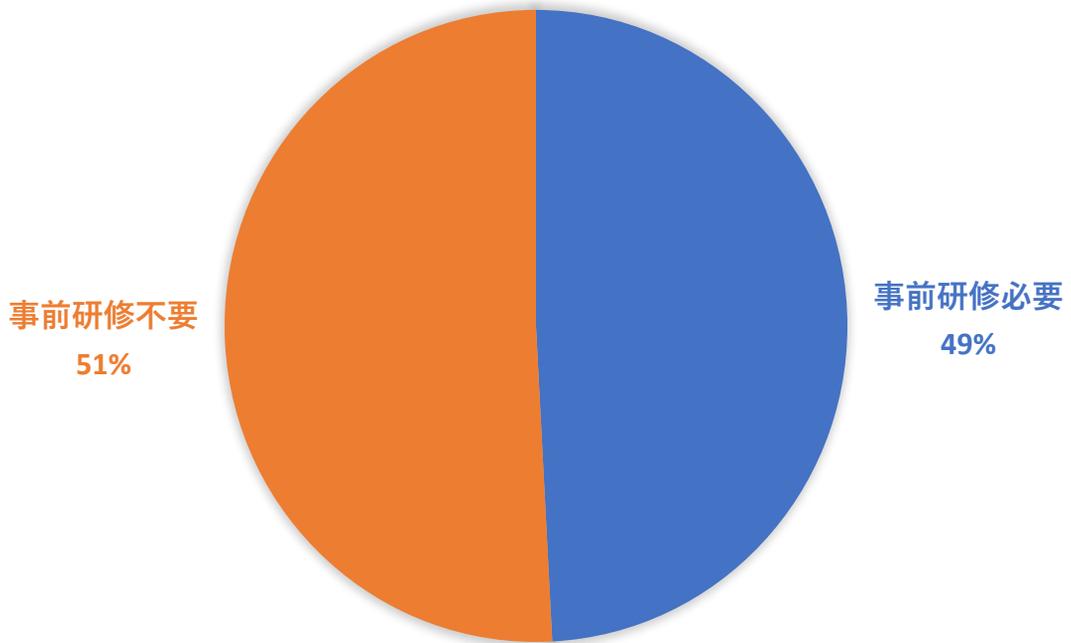
作業の難易度



- 難易度1と2で全体の9割弱をしめる
※数字の大きさが難易度の高さをそのまま表します

今回の対象タスク・作業240件では比較的難易度が低い作業が中心となっている。最も難易度が低い難易度1が全体の46%をしめ、難易度2が全体の40%をしめた。特別なスキルや経験がなくとも、援農の機会があることが確認できる。

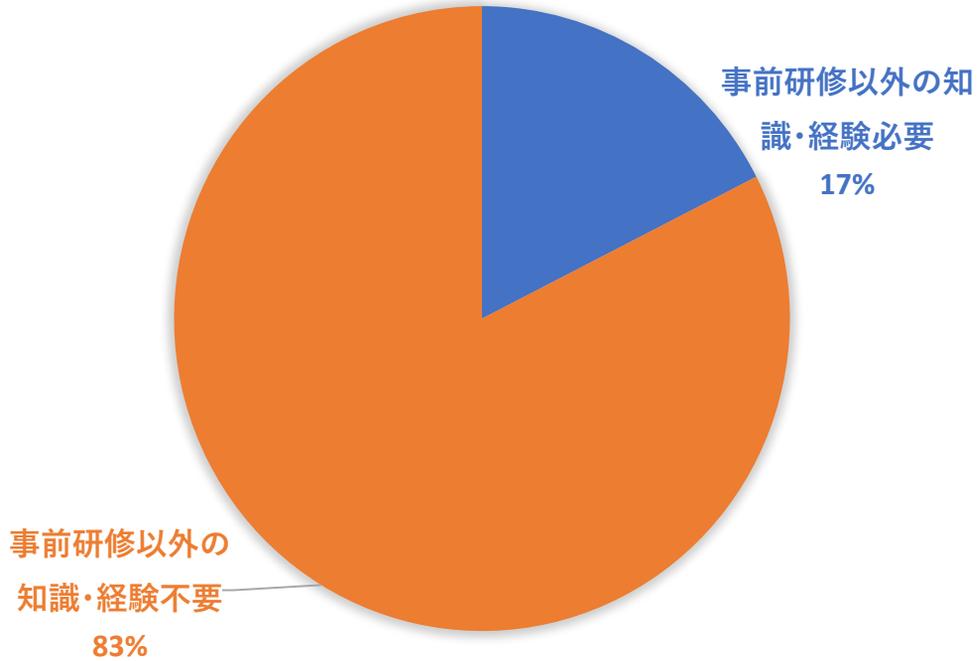
事前研修の必要有無



- 事前研修の必要有無においては五分五分という結果

事前研修の必要有無においては「必要」と「不要」が五分五分の結果となった。次項で触れる「知識や経験の必要有無」の結果も含め、就農経験が皆無の援農希望者にも広く門戸が開かれた就業機会であると考えられる。

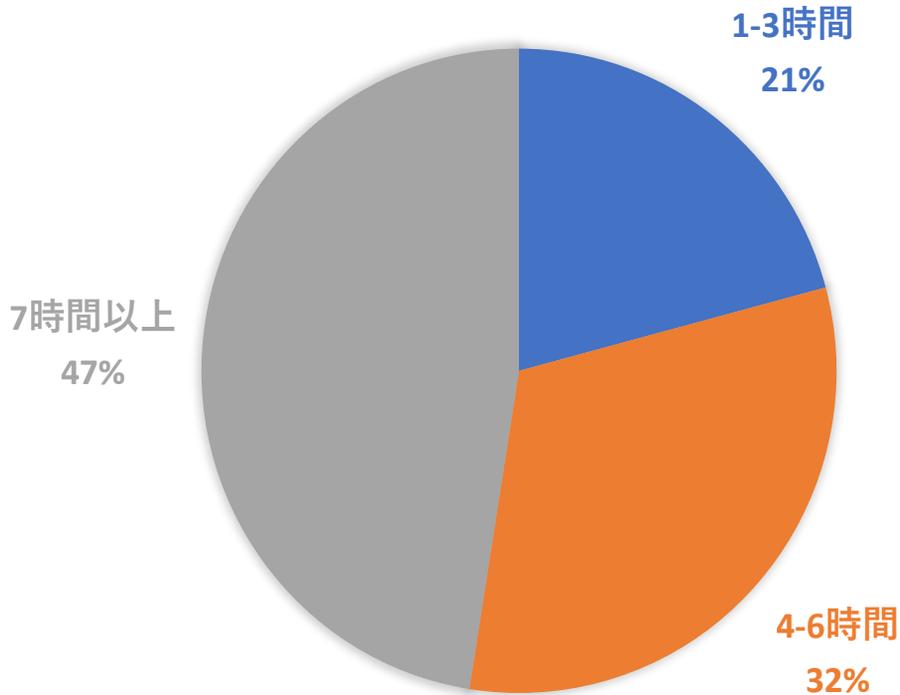
事前研修以外の知識や経験の必要有無



- 事前研修以外の知識経験については全体の8割強が不要な作業

事前研修以外の知識や経験については、全体の83%の作業において不要となっている。援農の気持ちがあれば誰でも取り組める作業が大半をしめていることが伺える。

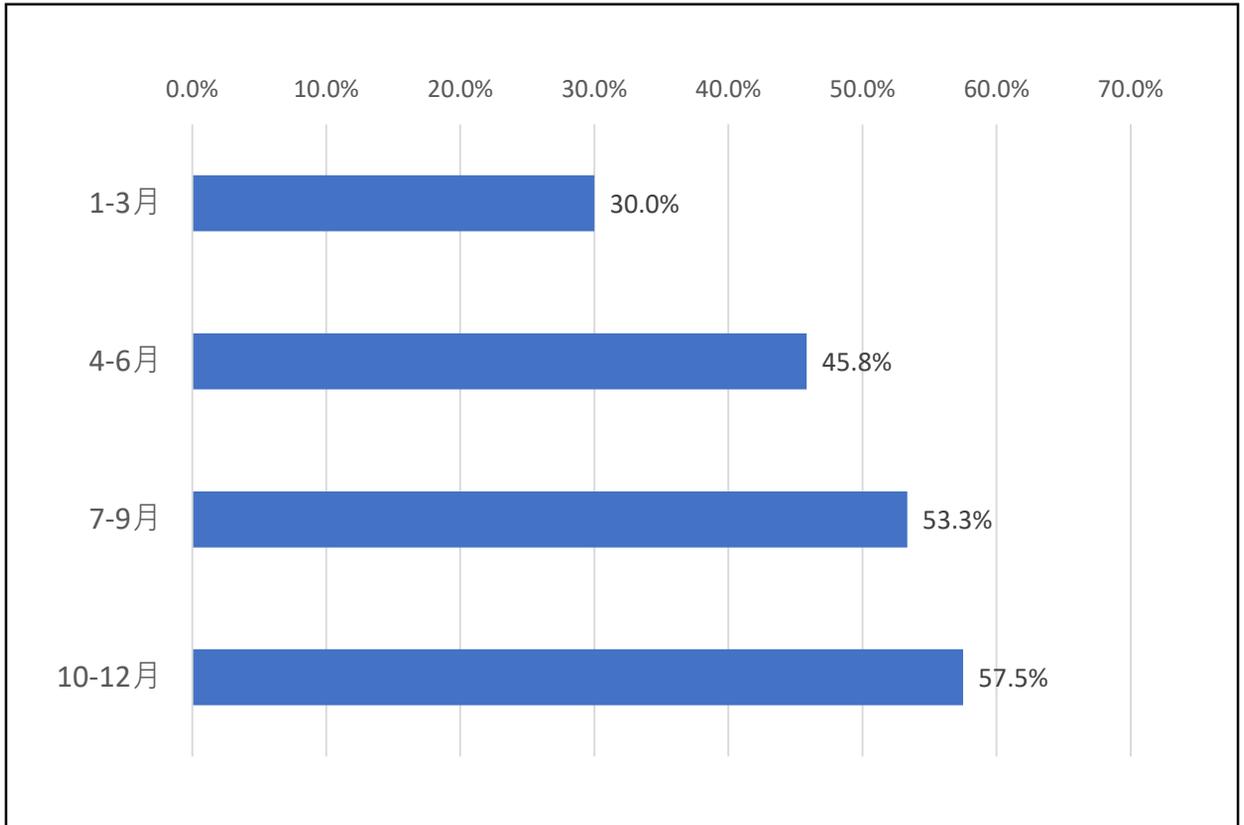
1回の援農作業時間



- 7時間以上が最も多く約過半数をしめる
- 作業いただく際は1日単位で取り組んでほしいという生産者が存在

丸一日の作業となる「7時間以上」が最も多く47%をしめており、1日単位の作業が大半をしめることが伺える。一方で6時間以下の仕事も過半数をしめていることから、アルバイトやパートでの短時間援農の機会も多く存在していることが確認できる。

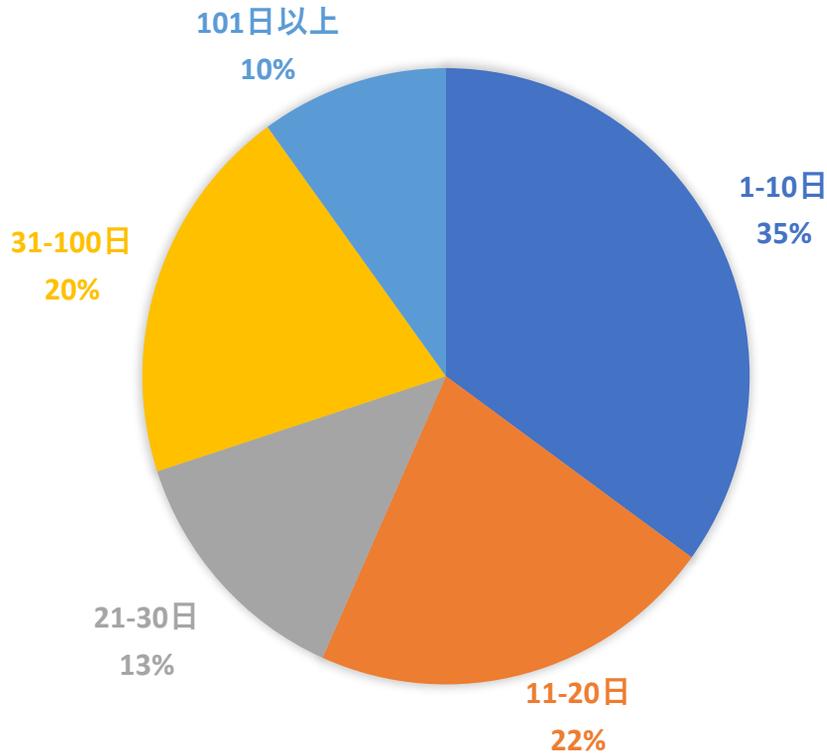
援農の必要時期



- 10-12月の作業が約6割をしめる
- 年末になるにつれて作業が増えていく

今回の対象240件においては、年末に近づくにつれて作業が多くなる傾向が確認できる。一方で、年末はイベントも多く、人が集まりにくい時期でもある為、ミスマッチが存在しやすい時期と考えられる。援農における一つの課題となりそうだ。

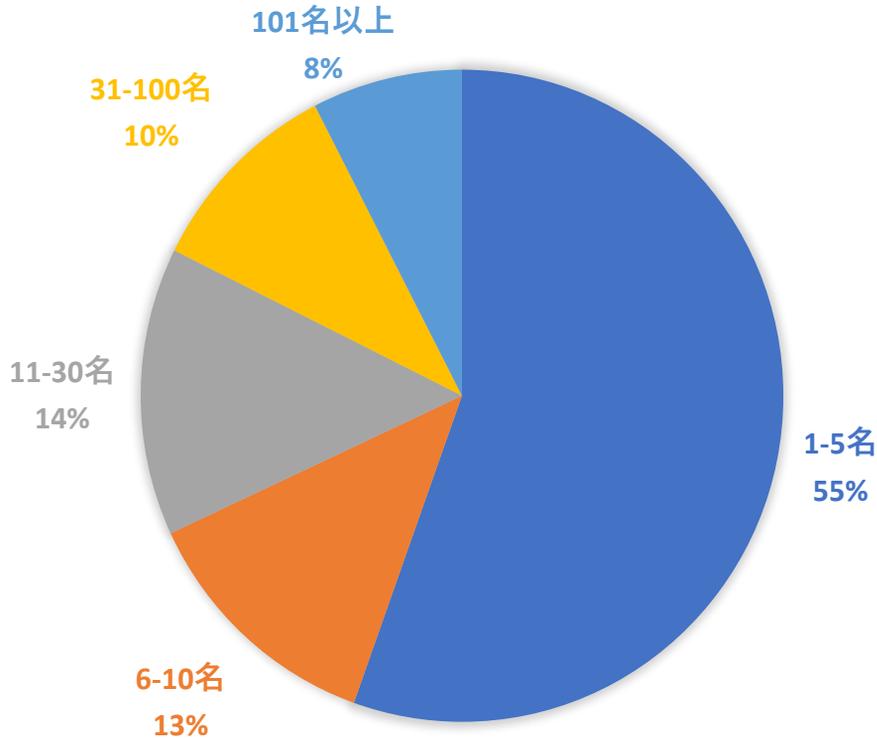
援農の必要期間



- 1-10日が35%と最も多くをしめる
- 101日以上の作業も全体の10%をしめている

1-10日と比較的短期間の作業が全体の35%をしめて最も多くなっているが、比較的均等に分布されているとも考えられ、各援農支援希望者のニーズに合わせた作業を紹介できそう。一方で31日を超える作業も30%をしめており(20%+10%)、長期間に渡って支援して欲しいという生産者の存在や、慢性的な人手不足も確認できるデータと考えられる。

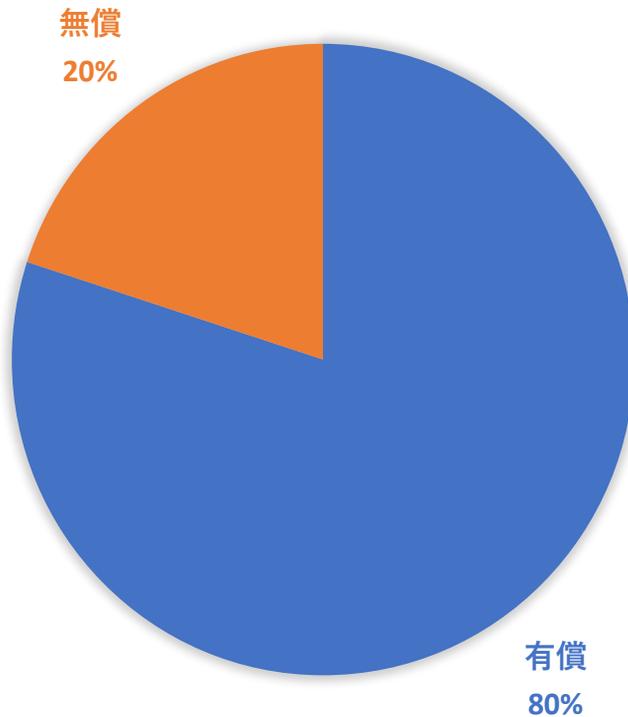
援農必要人数



- 必要な人数については1-5人が最も多く過半数をしめる
- 31名以上を求める作業も約2割存在する

援農必要人数においては1-5名が過半数(55%)をしめている。一方で31名以上を求めている作業も全体の2割近く存在してる。季節や作業内容によっては、できるだけたくさんの援農者に助けてほしい、という生産者も相応に存在していると考えられる。

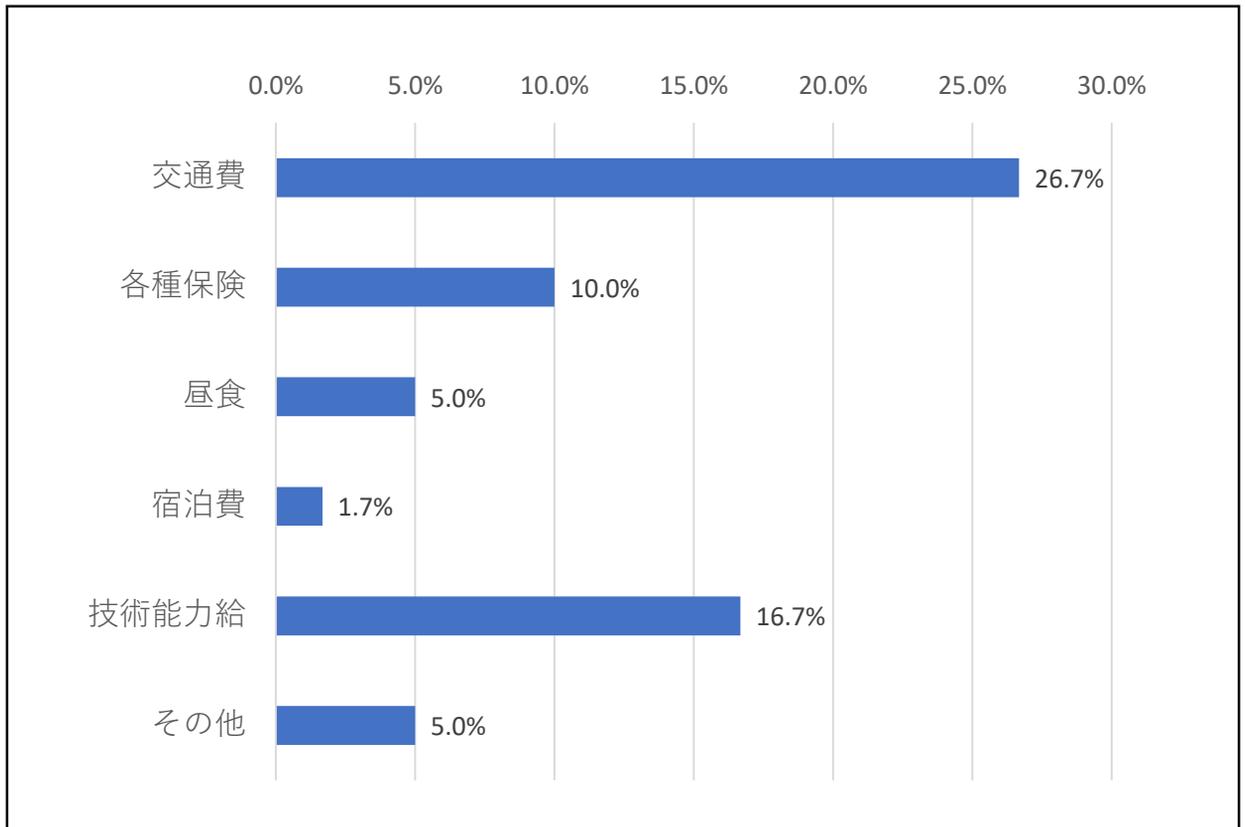
援農形態 (有償・無償)



- 全体の約8割が有償での援農機会となっている

全作業のうち、約8割は有償の作業となっている。ボランティアでの援農者も一定数存在していると思われるが、一つの就業機会として援農が選択肢になることを意味している。

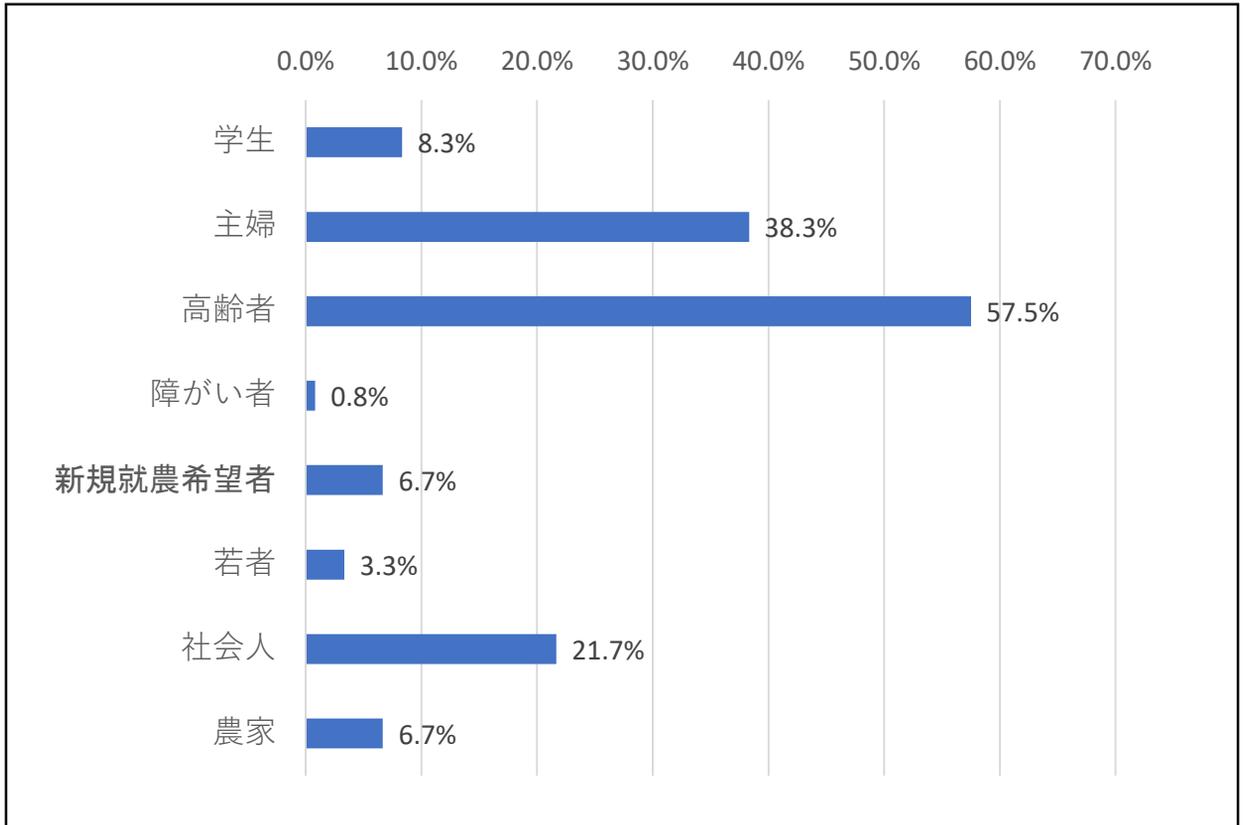
金銭報酬以外の手当て



- 約27%の作業において交通費はカバーされている
- 重要な保険については10%の採用に留まっている

金銭報酬以外での手当としては、全体の3割弱の作業において交通費はカバーされている。また、15%強の作業においては技術能力給が設定されており、スキルや知識の向上次第で報酬がアップするという一般的な就業と同等の機会を与えていることも伺える。一方で農作業においては重要な傷害保険などの普及率は10%程度にとどまっており、一つの課題と考えられる。

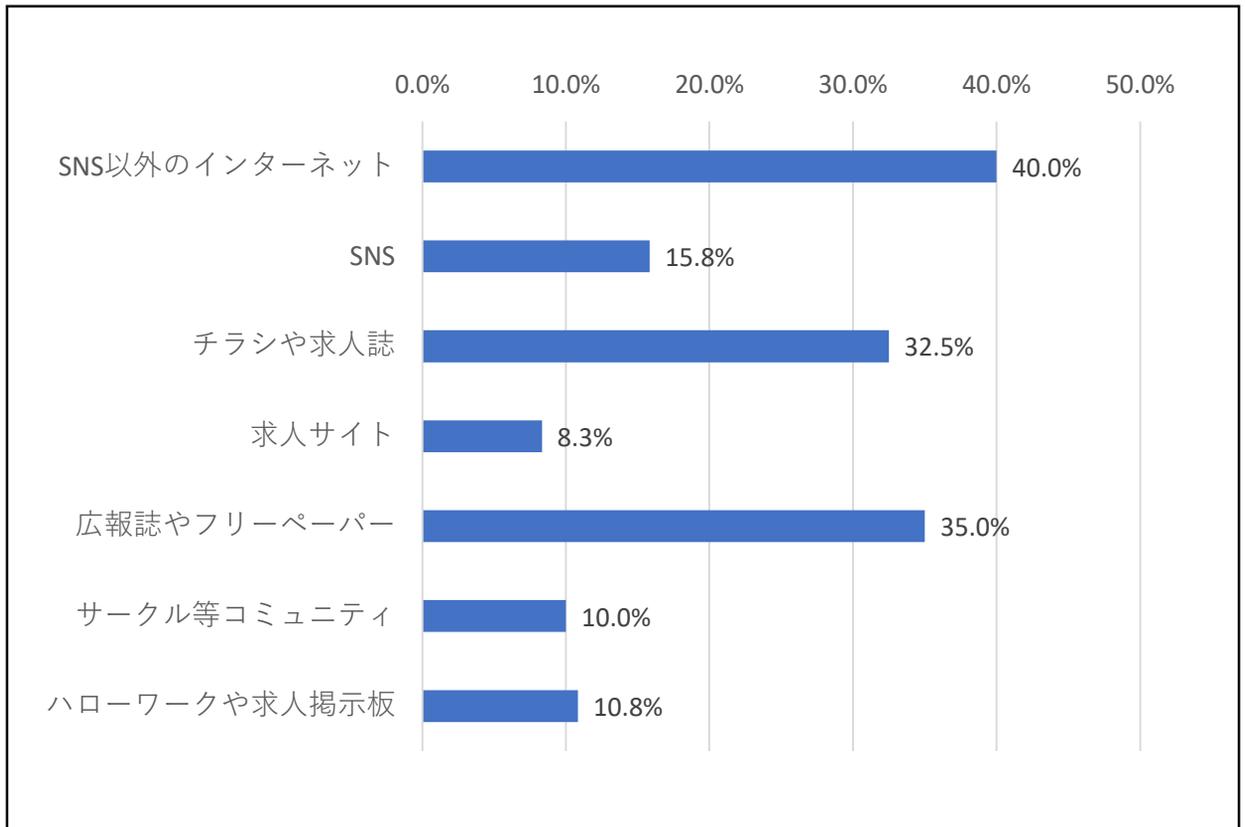
援農者層



- 援農者としては高齢者が最も多く全体の6割弱をしめる
- 休日を利用した社会人も約2割程度をしめている

援農者としては退職した高齢者の登用が最も多く、全作業の6割弱で採用されている。2番手には主婦があげられており、パートとして援農にあたっていると考えられる。また、休日を利用した社会人も2割程度の作業において登用されていることが伺える。

援農者募集状況



- インターネット、紙面と幅広く展開
- 基本的にはお金をかけない募集が中心

援農者の募集にあたっては生産者などのホームページにて告知されることが最も多く、全作業の4割程度で採用されている。次いで広報誌やフリーペーパーなどが35%となっており、無料で告知できる媒体などが好まれていることが伺える。

集計結果

単純集計：基本属性

単純集計：設問項目

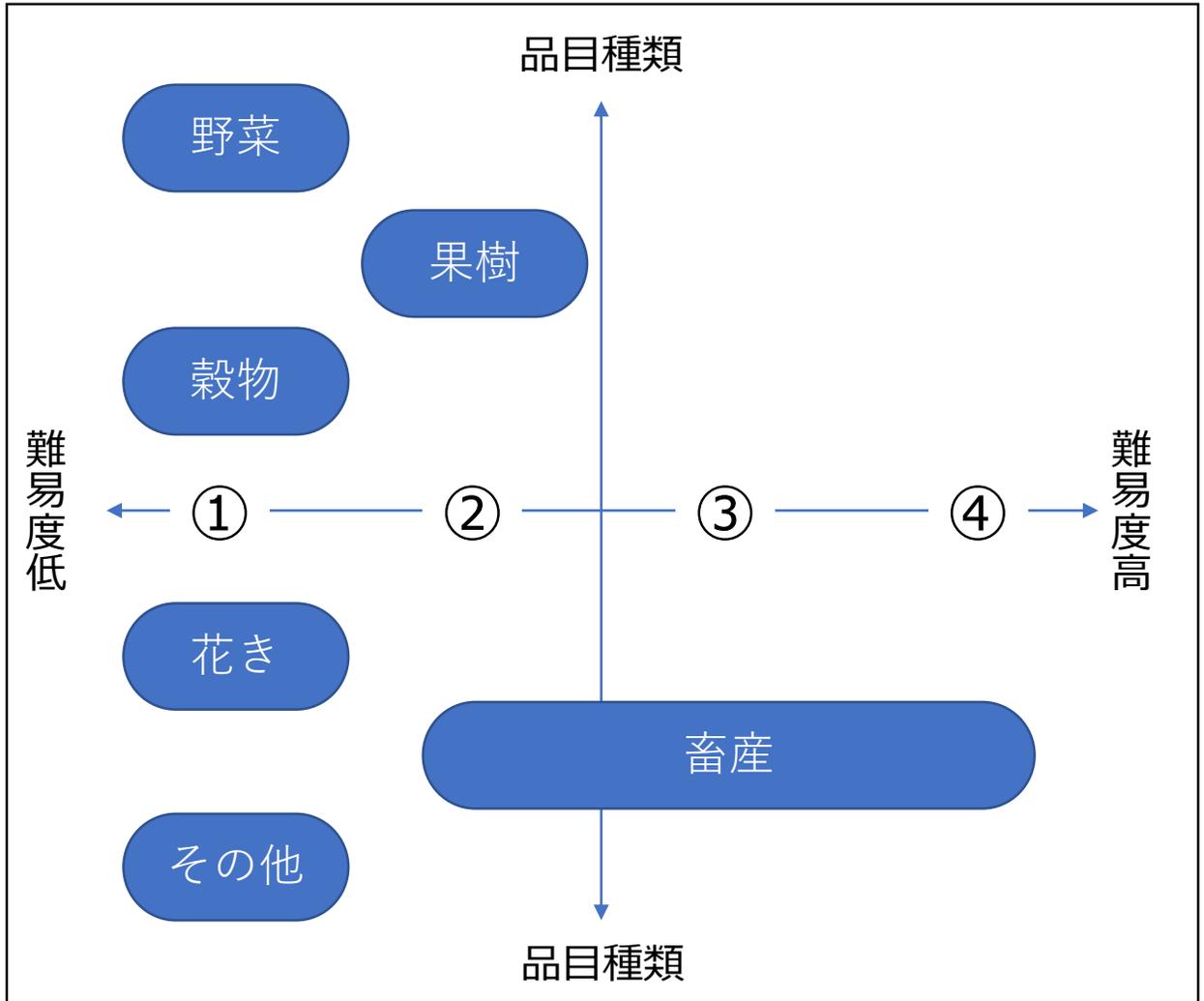
クロス集計：援農品目種類 × 7項目

クロス集計：援農作業内容 × 7項目

単純集計：補足設問項目

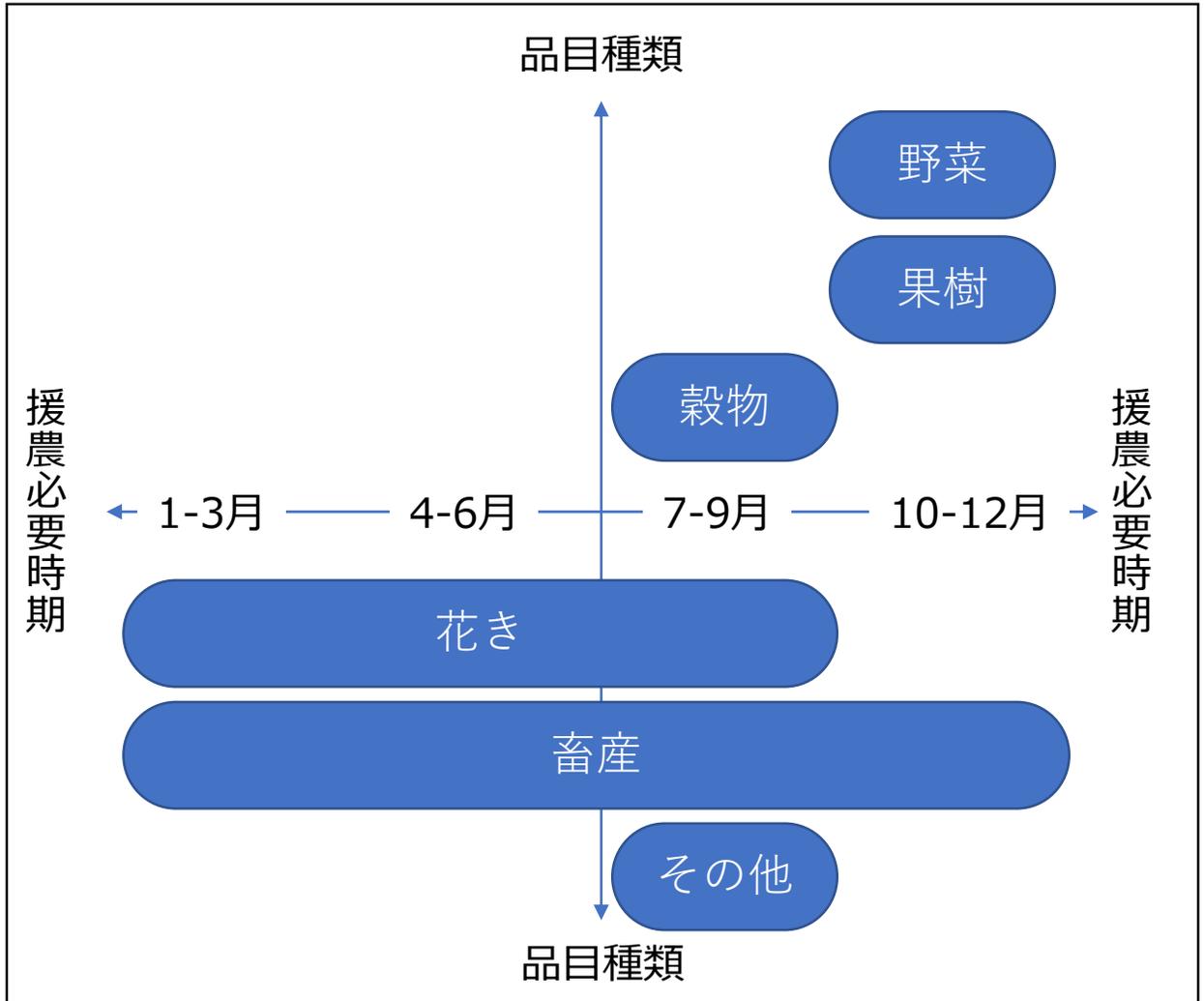
クロス集計においてはマトリクス図を採用し、各項目で最も多く発生する回答選択肢をプロットしております。複数の回答選択肢が同数で並ぶ場合はそれらをすべてカバーするプロットにしております。

援農品目種類 × 援農作業難易度



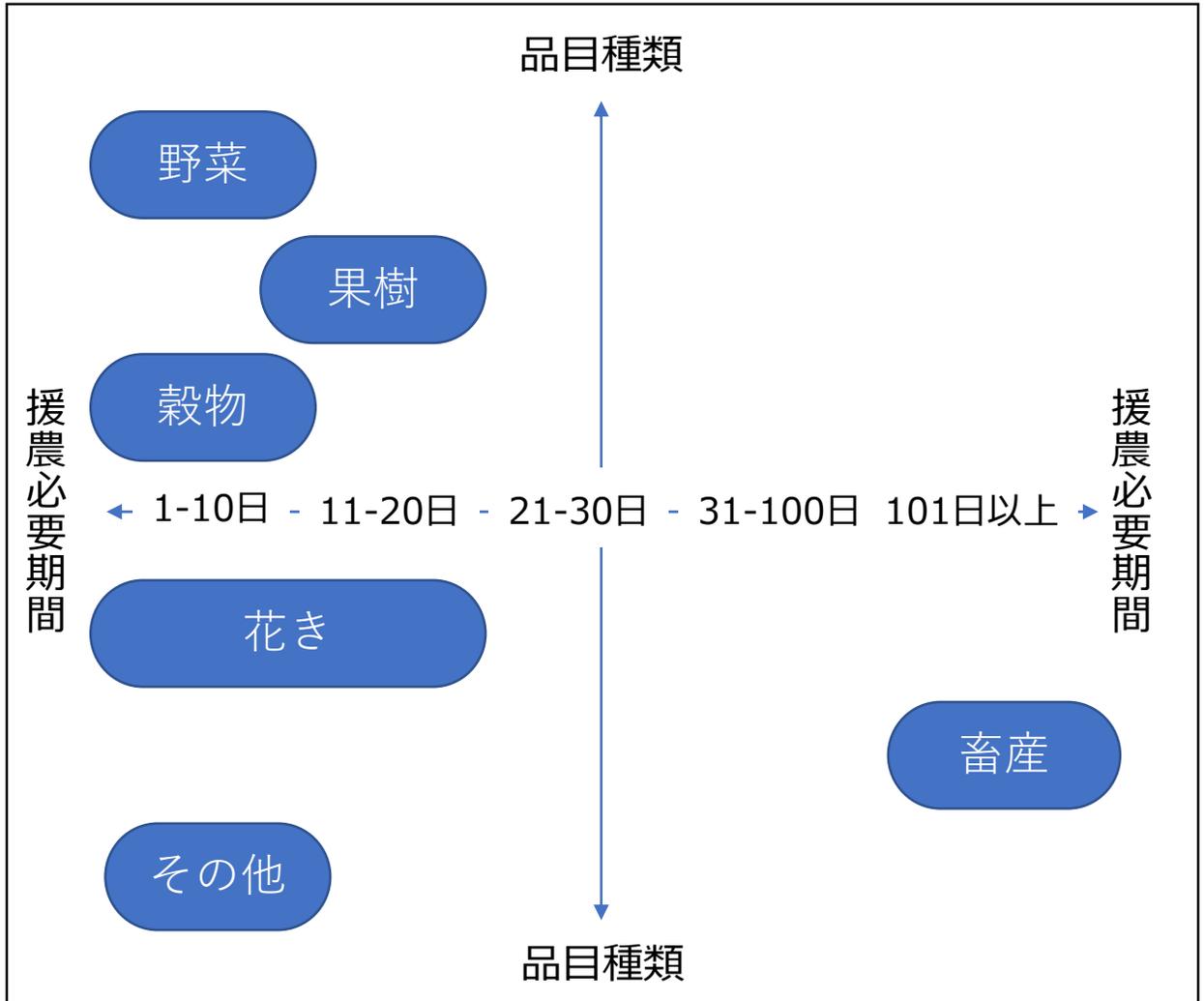
野菜、穀物、花き、その他作業に関しては難易度①の作業が最も多く、農作業経験がない援農者にも取り組みやすい品目種類となっている。一方、果樹や畜産についてはやや難易度は高めとなっている。※畜産は難易度②～③に均等に分布。

援農品目種類 × 援農必要時期



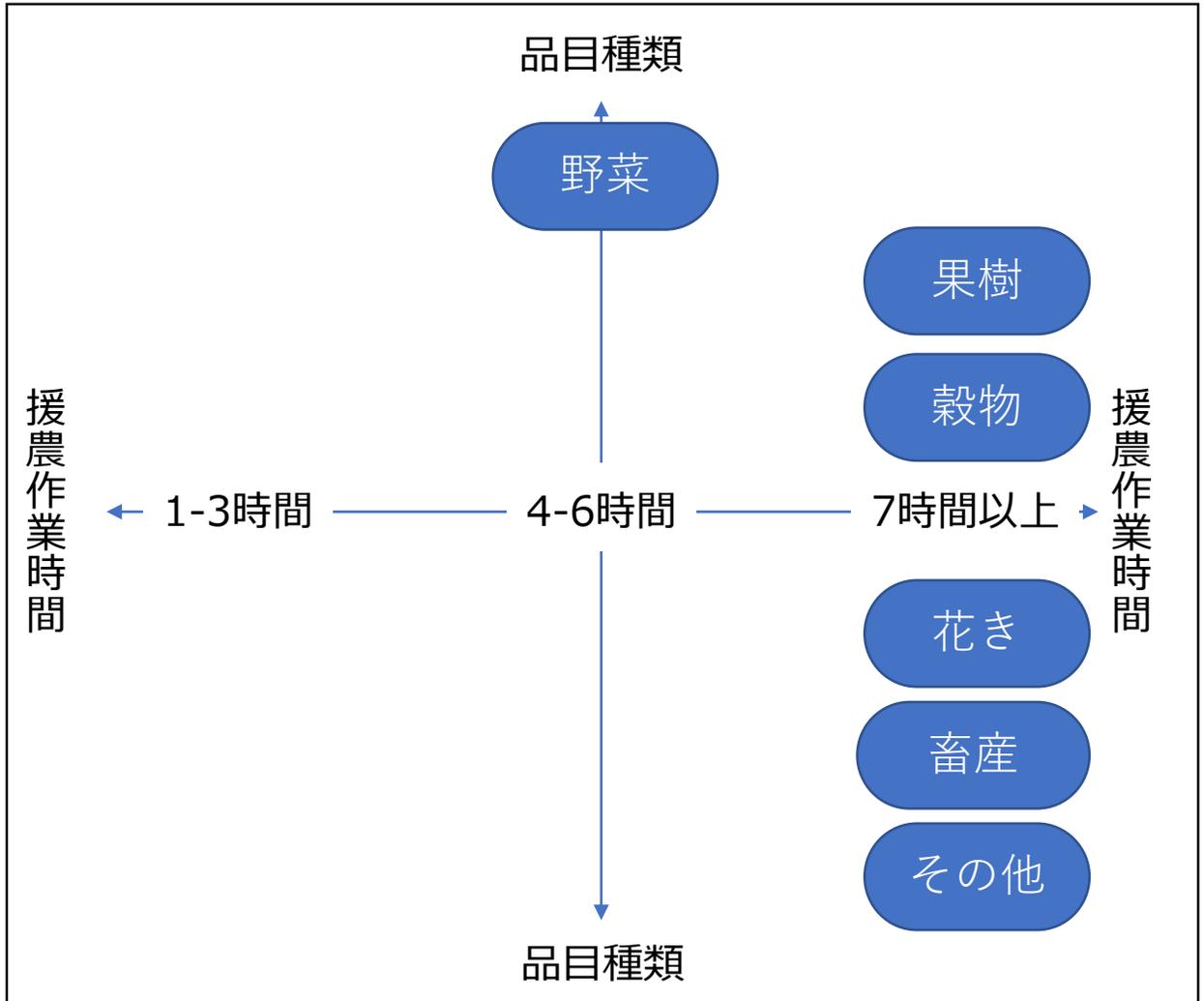
1年の後半部分が、全ての作業において重点的に必要とされている時期であることが分かる。特に、野菜、果樹においては10-12月の年末の時期に特に援農者が必要とされていることが伺える。

援農品目種類 × 援農必要期間



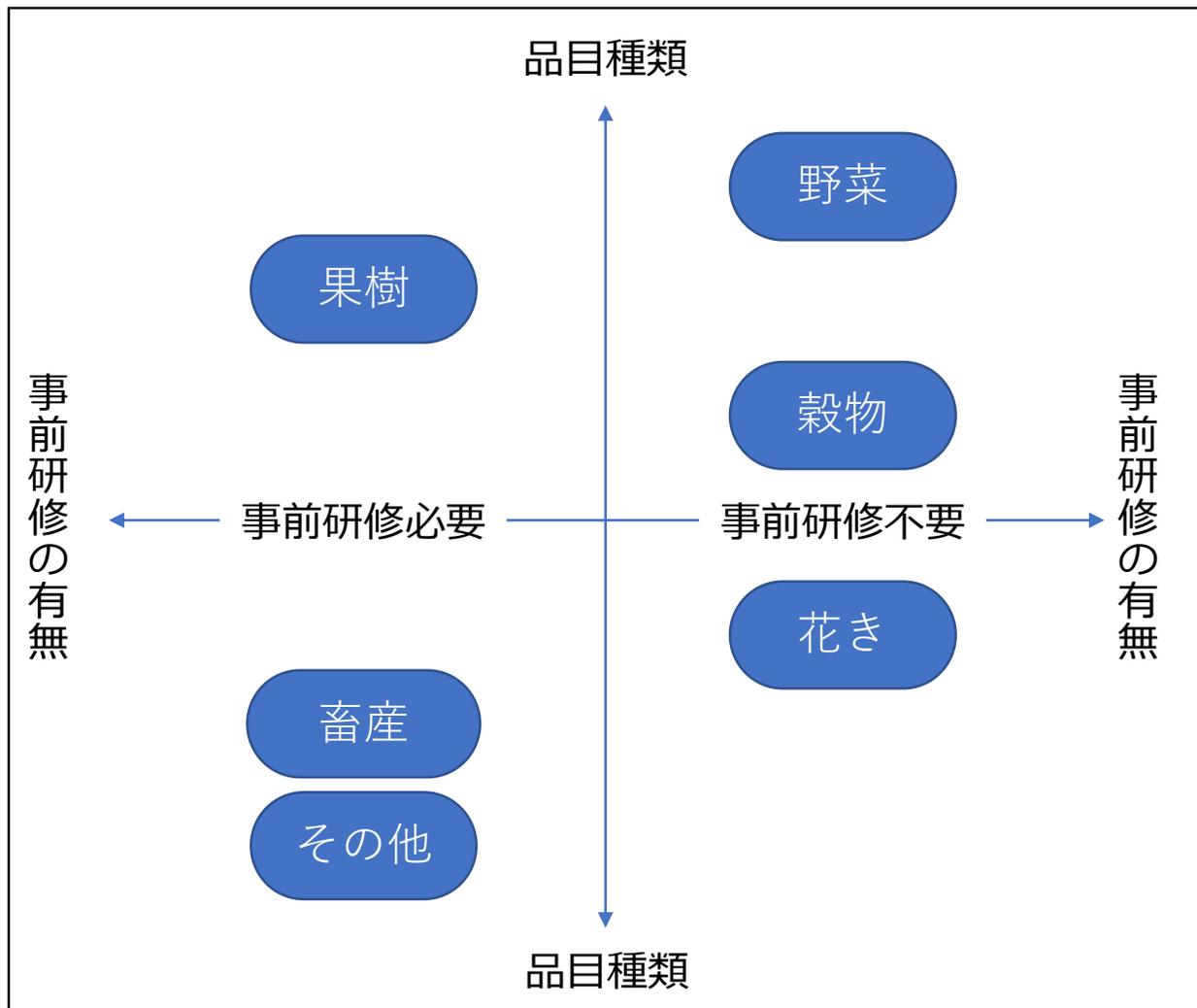
各作業に必要とされる期間は20日以内がほとんどで、特に野菜や穀物などは10日以内に完了する作業がメインとなっている。一方で畜産に関しては長期的な取り組みが必要な作業が多く、101日以上の作業がメインとなっている。

援農品目種類 × 援農作業時間



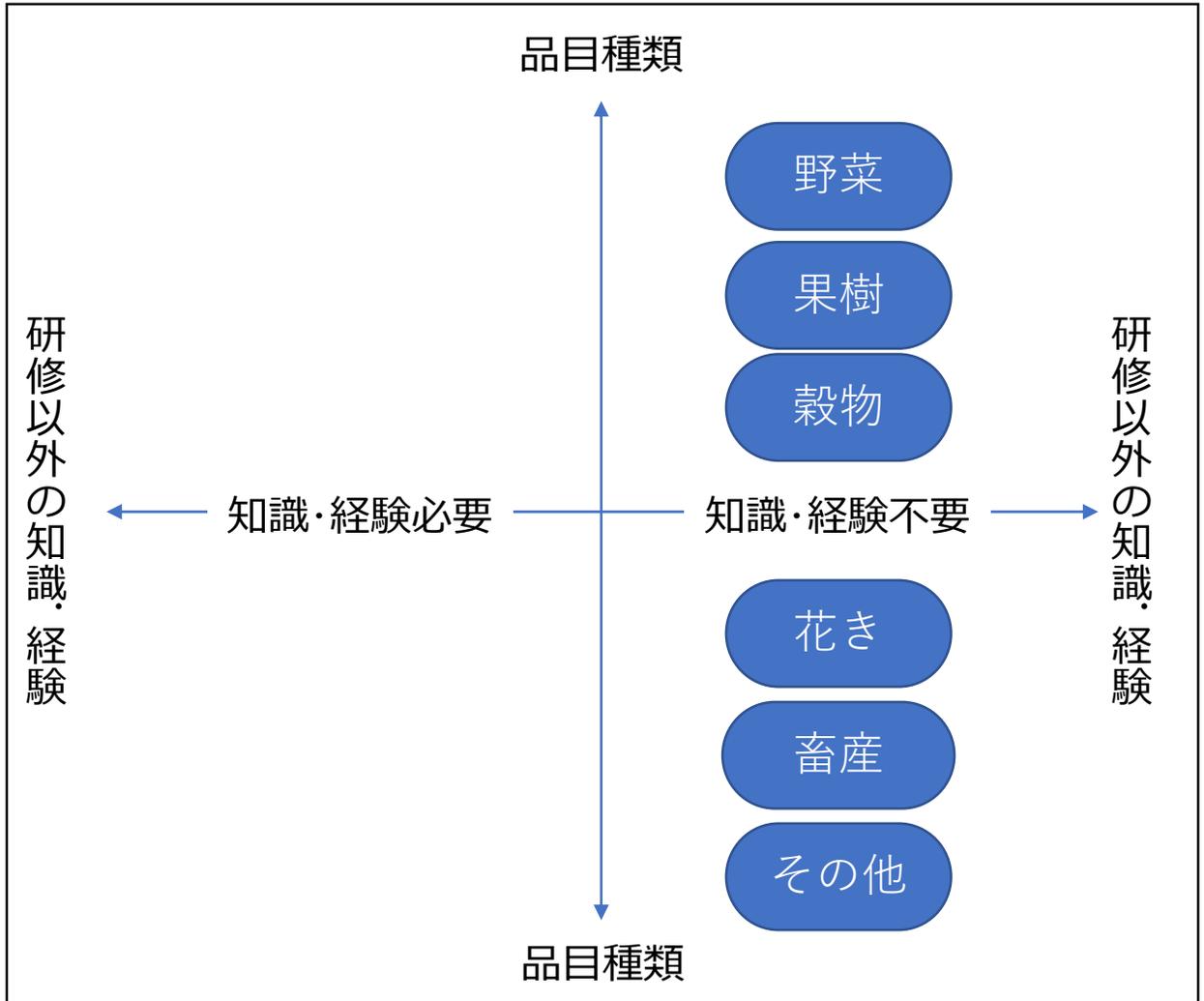
いずれの品目においてもある程度まとまって作業して欲しいという生産者の意向が読み取れ、野菜以外の果樹、穀物、花き、畜産等については丸一日の作業単位が好ましいということが伺える。

援農品目種類 × 事前研修の有無



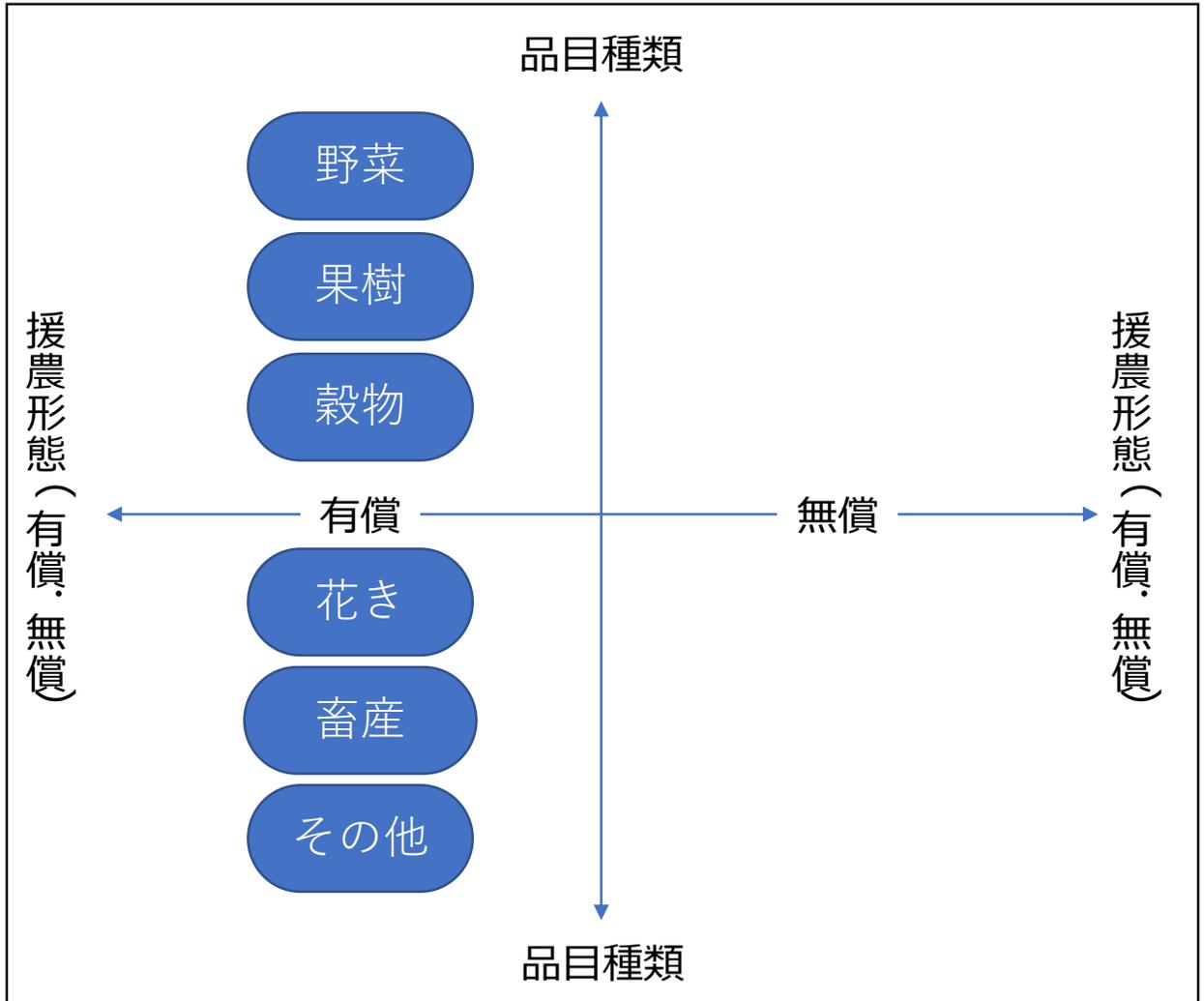
果樹、畜産等については事前研修を設定しているタスクが多い一方、野菜、穀物、花きについては特に事前研修を設定していないタスクが過半数をしめている。

援農品目種類 × 事前研修以外の一定の知識・経験の必要



事前研修を除けば、全ての品目種類において特別な知識や経験が必要ではないタスクが過半数をしめており、幅広い援農者に門戸が開かれていることが伺える。

援農品目種類 × 援農形態 (有償・無償)



全ての援農品目種類において、有償でのタスクが過半数以上をしめている。ボランティアが前提となるタスクも存在するが、対価を得られるタスクが基本となっている。

集計結果

単純集計：基本属性

単純集計：設問項目

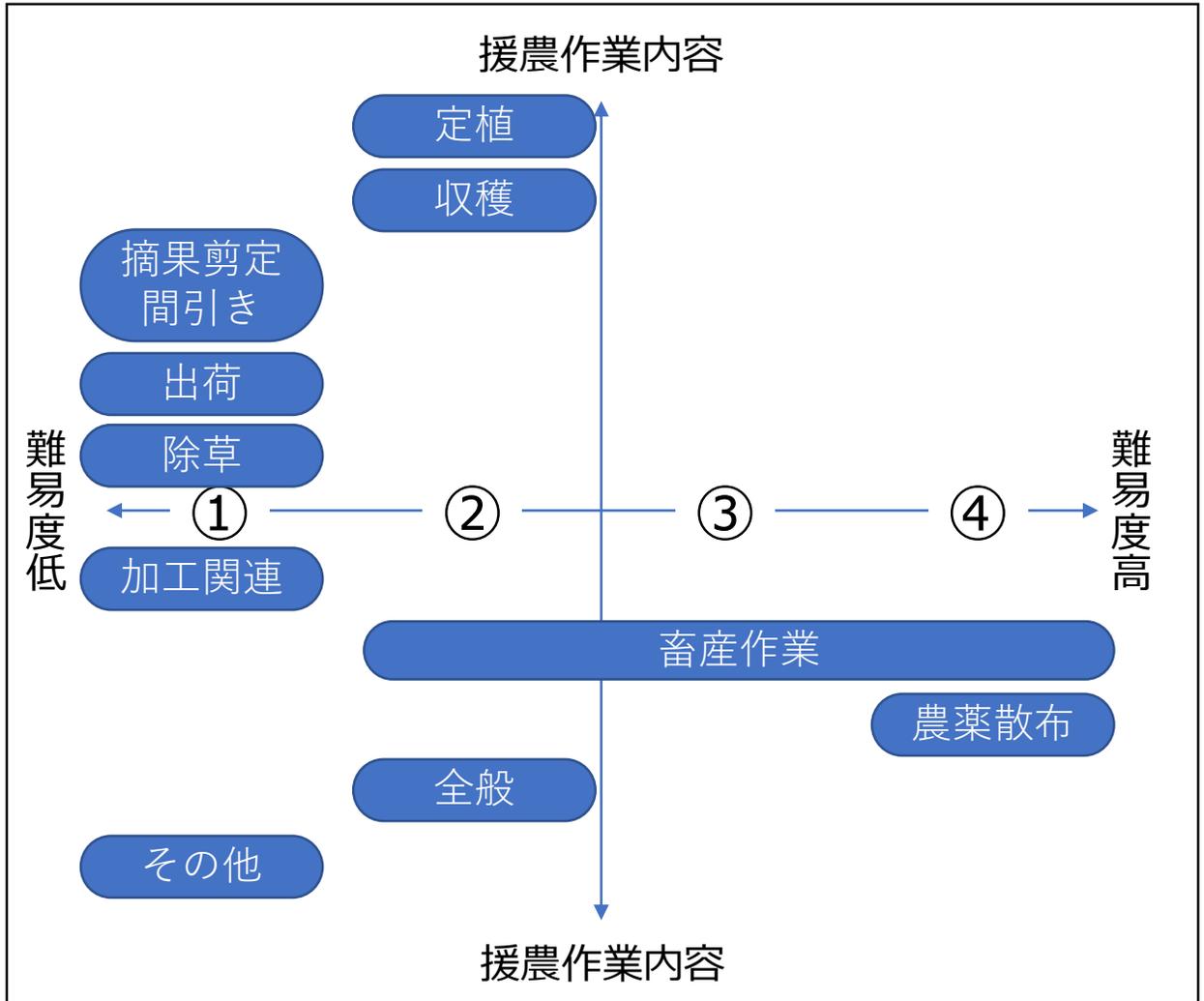
クロス集計：援農品目種類 × 7項目

クロス集計：援農作業内容 × 7項目

単純集計：補足設問項目

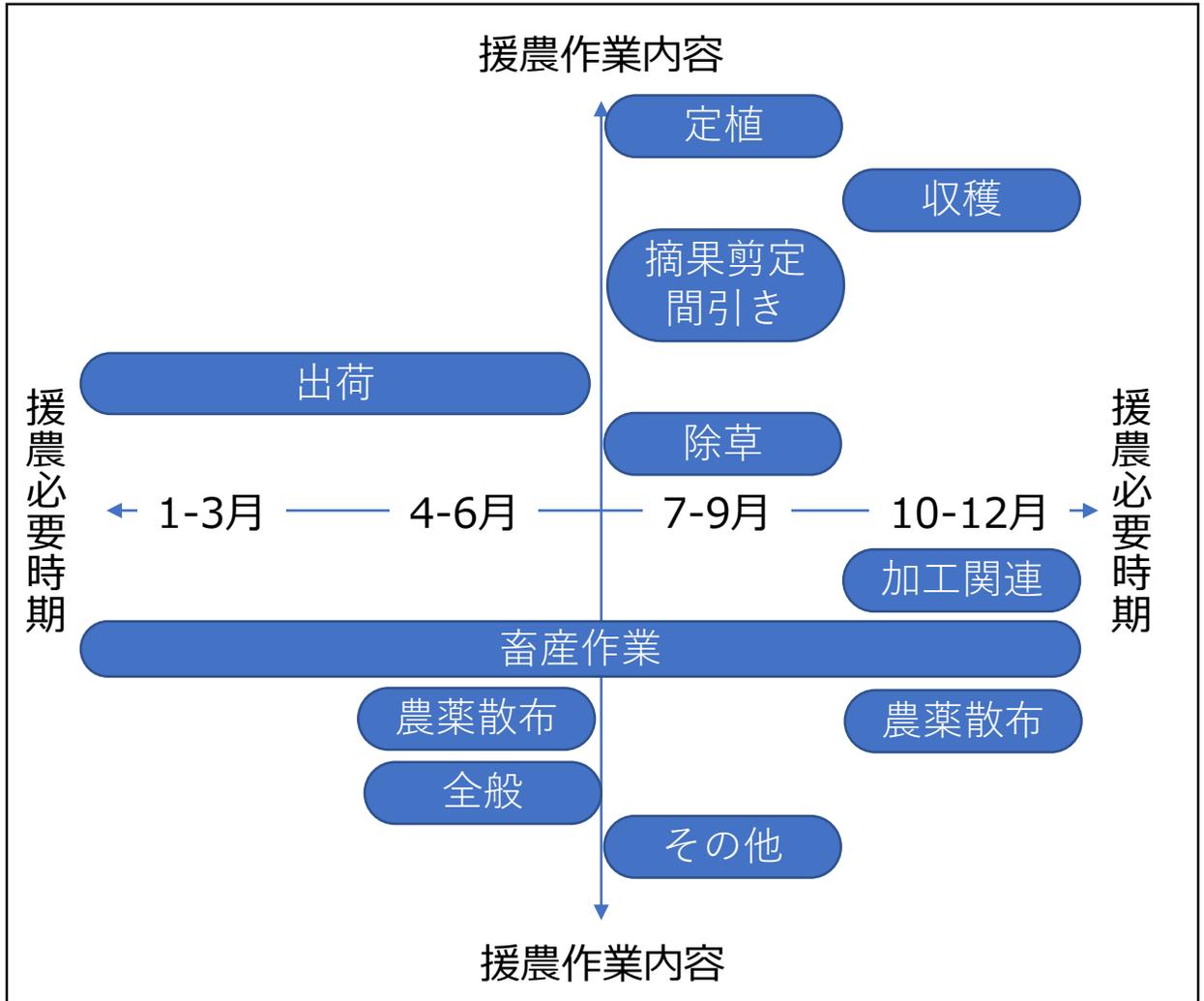
クロス集計においてはマトリクス図を採用し、各項目で最も多く発生する回答選択肢をプロットしております。複数の回答選択肢が同数で並ぶ場合はそれらをすべてカバーするプロットにしております。

援農作業内容 × 援農作業難易度



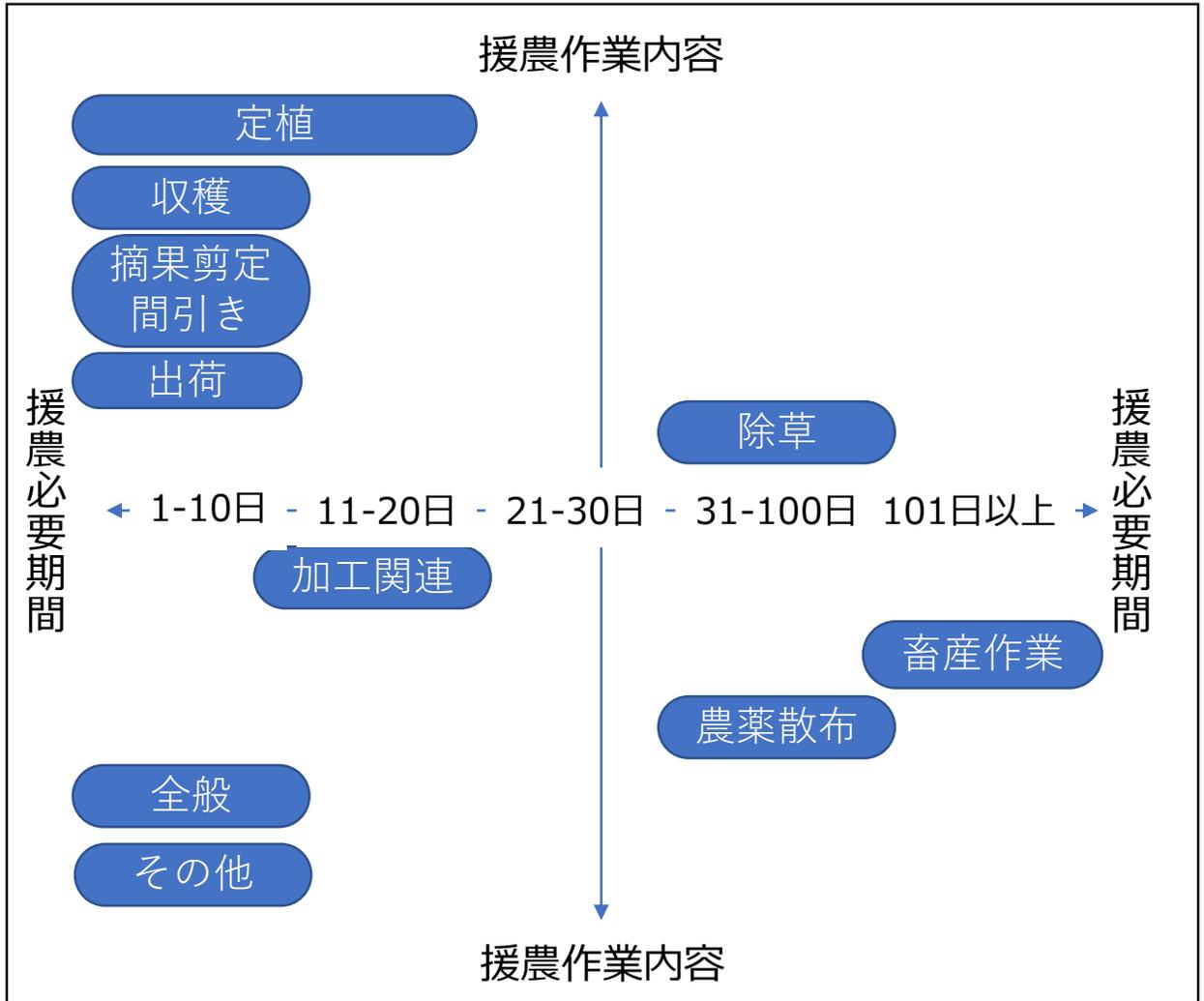
約半数の作業は難易度①であり、比較的取り組みやすい作業となっている。一方で定植や収穫といった募集数が多い作業についてはやや難易度が高めとなっている。また、畜産や農薬散布などは難易度が③④といった水準であり、経験者や専門的な知識が必要とされる。

援農作業内容 × 援農必要時期



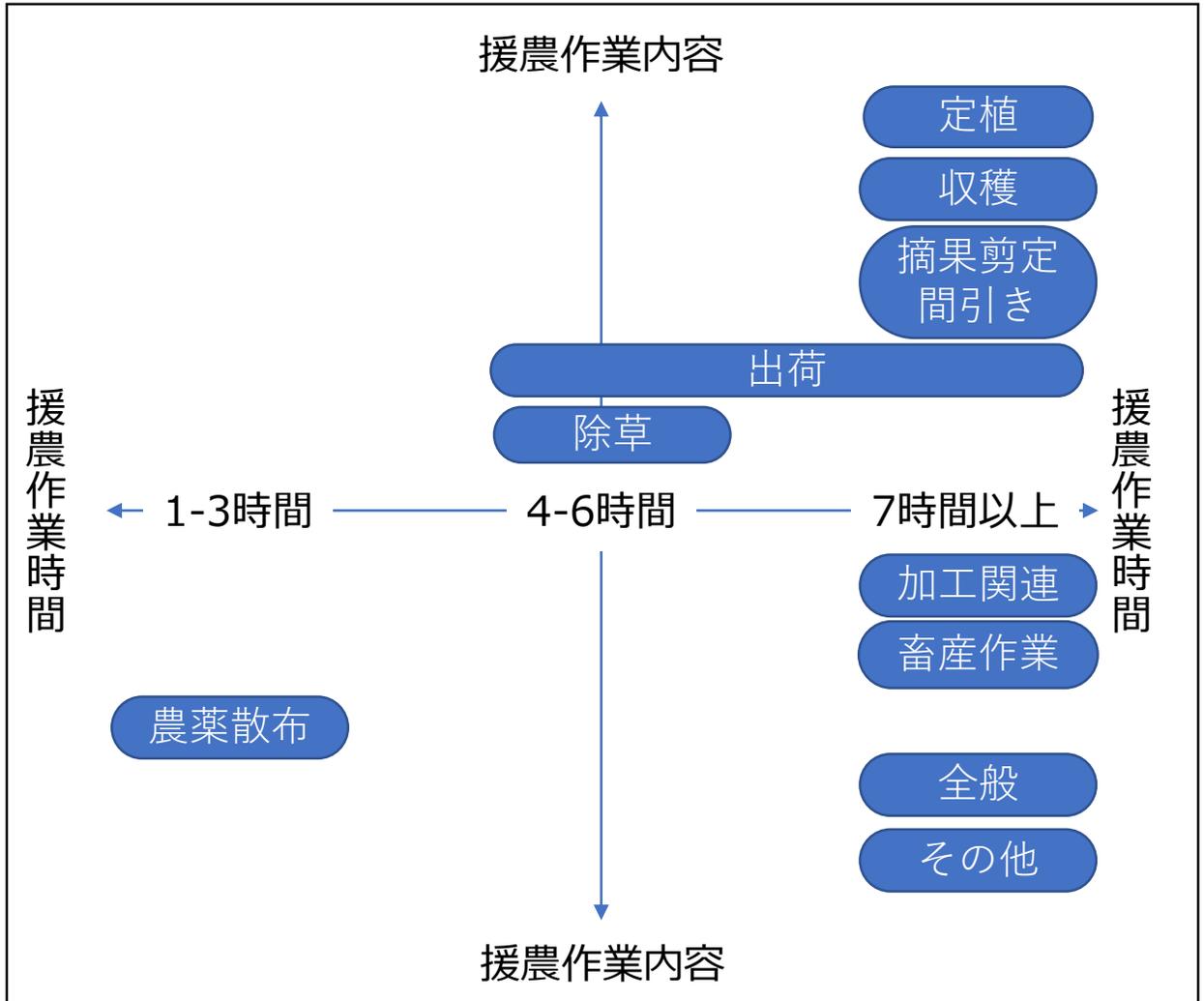
半数以上の作業内容が年の後半に集中している。特に作業件数が多い収穫も含めて年末にかけての募集が多く、年末における人材不足が読み取ることができる。

援農作業内容 × 援農必要期間



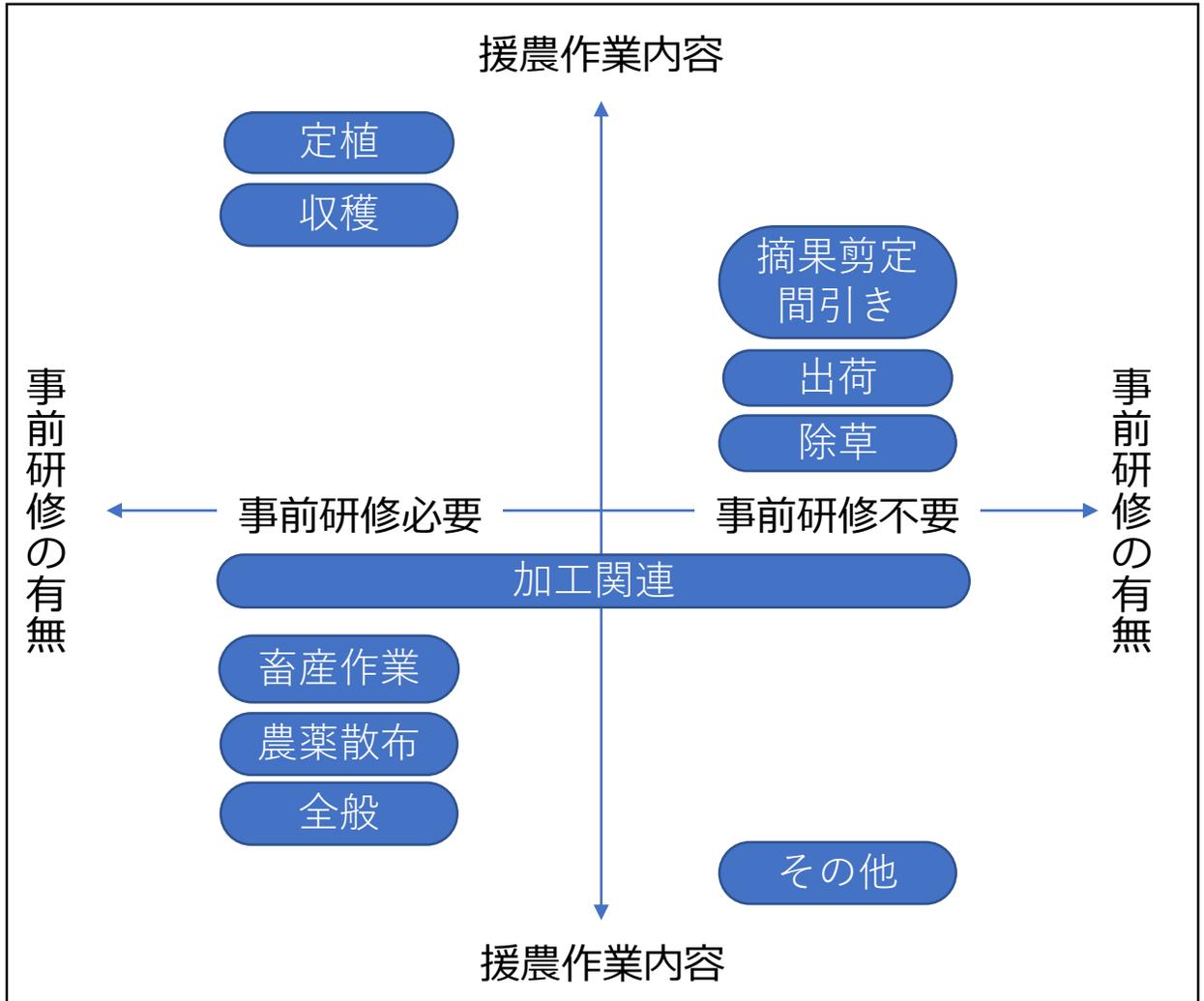
定植、収穫、摘果剪定間引き、出荷などは10日以内の作業がメインとなるが、除草、農薬散布、畜産関連といった比較的技能や知識が必要とされる作業に関しては中・長期間に渡ってコミットできる援農者が必要とされていることが伺える。

援農作業内容 × 援農作業時間



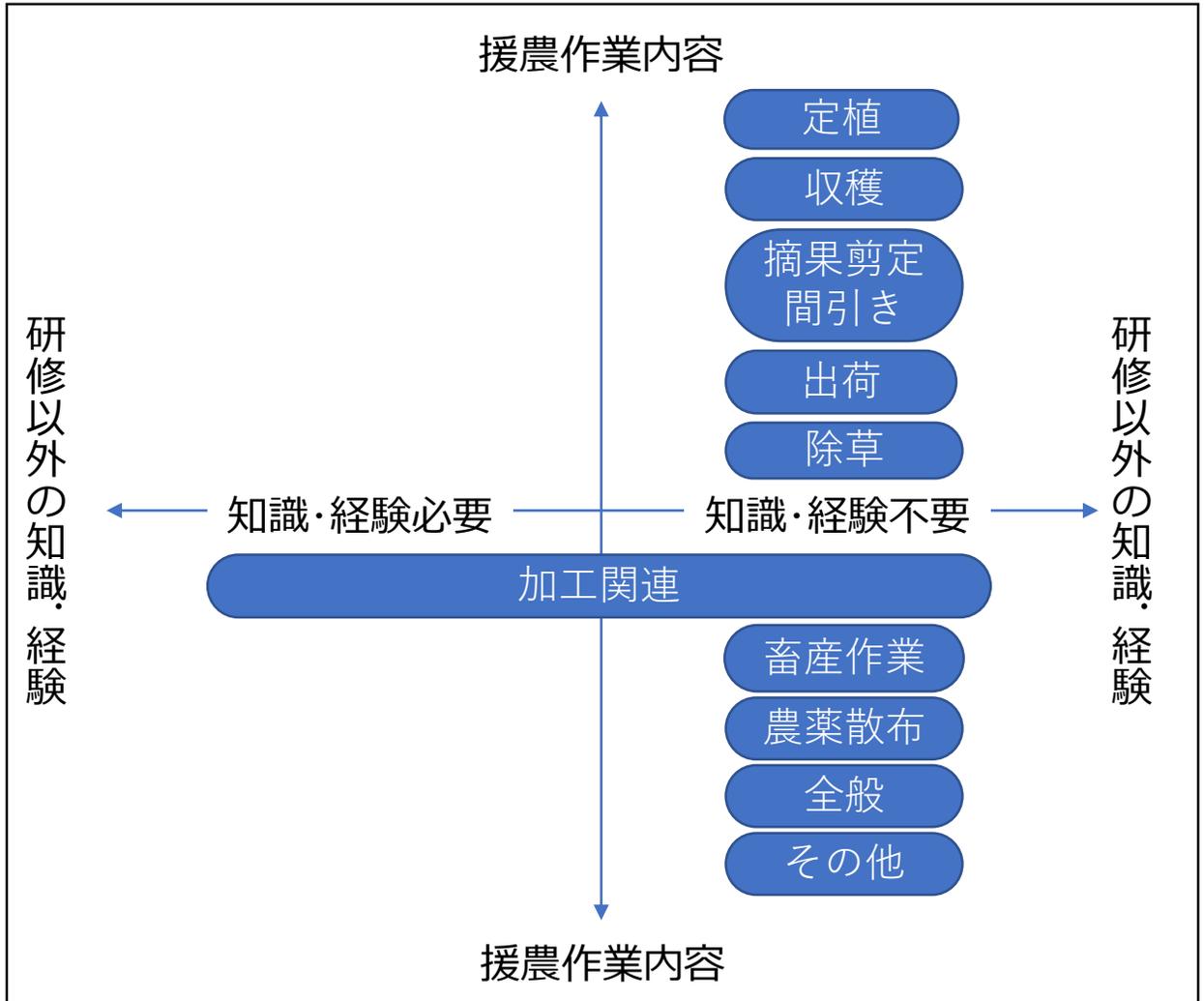
大部分のタスクが7時間以上、つまり丸一日単位での作業時間を求めていることが読み取れる。一方で農薬散布や除草などの作業は1-6時間以内の作業が大部分となっている。

援農作業内容 × 事前研修の有無



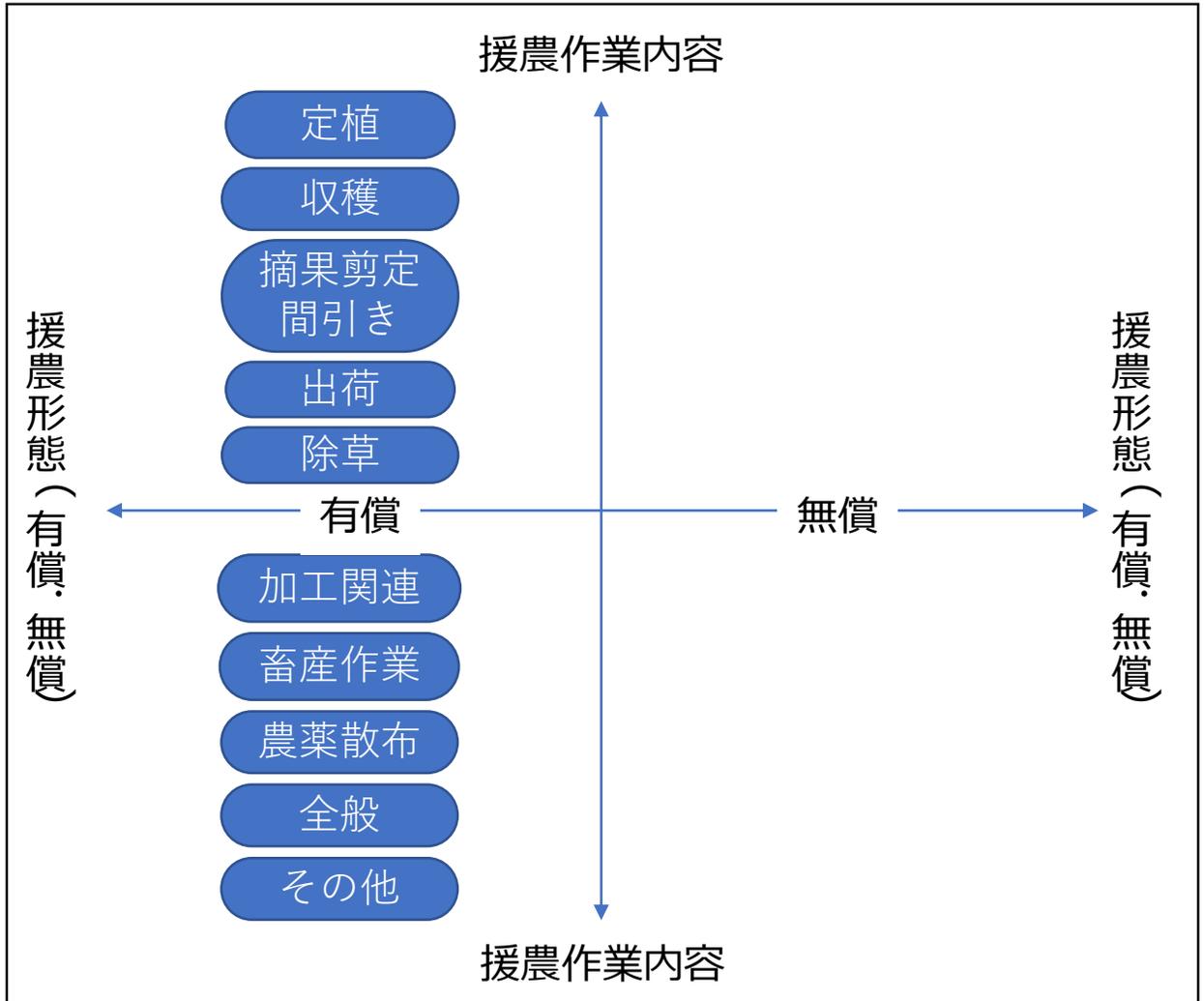
全タスクの約半数において事前研修が設定されている。農薬散布などの、作業時に特に注意を要する作業においては研修が非常に重要になると考えられる。

援農作業内容 × 事前研修以外の一定の知識・経験の必要



全ての援農作業内容において、事前研修以外の特別な知識や経験は必要ではないタスクが過半数をしめている(加工関連は同数)。事前研修を受ければ安心して援農作業にあたれることが伺える。

援農作業内容 × 援農形態 (有償・無償)



全ての援農作業内容において有償のタスクが大部分をしめており、援農業務に対して報酬が支払われることが前提となっている。

集計結果

単純集計：基本属性

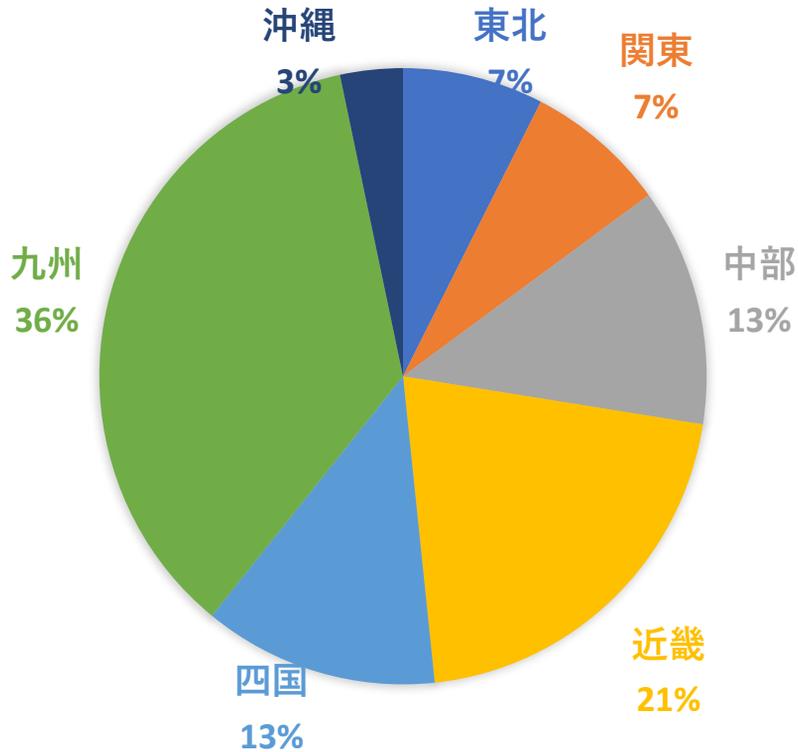
単純集計：設問項目

クロス集計：援農品目種類 × 7項目

クロス集計：援農作業内容 × 7項目

単純集計：補足設問項目

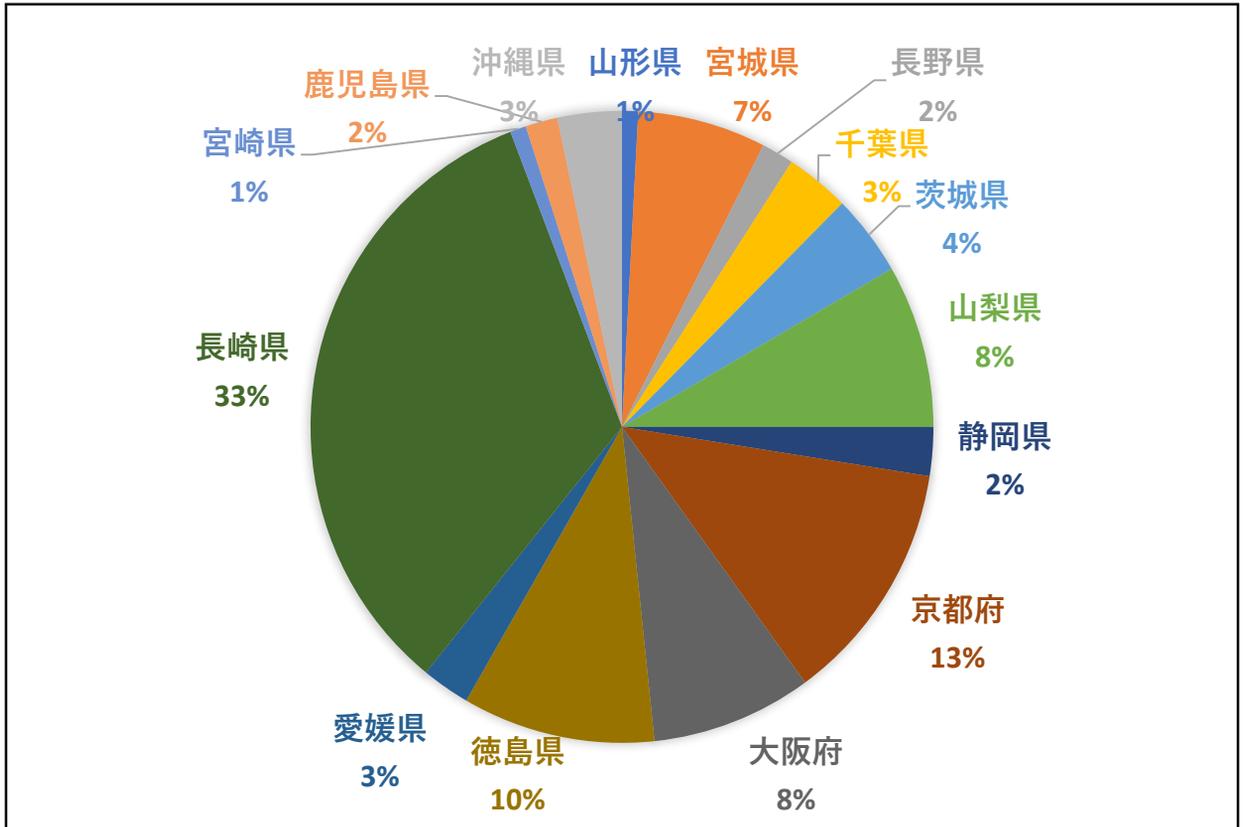
タスクの地域分布



- 九州地方が最も多く全体の36%(43件)をしめる
- 日本全国に比較的均等に分布

今回の対象タスク・作業240件においては北は東北から南は沖縄まで比較的均等に日本全国に分布していることが伺える。作業件数としては九州地方が最も多く、全体の36%をしめ、続いて近畿地方(21%)、中部地方(15%)、四国地方(15%)と続いた。※さらに詳細の都道府県単位での分布については補足データをご覧ください。

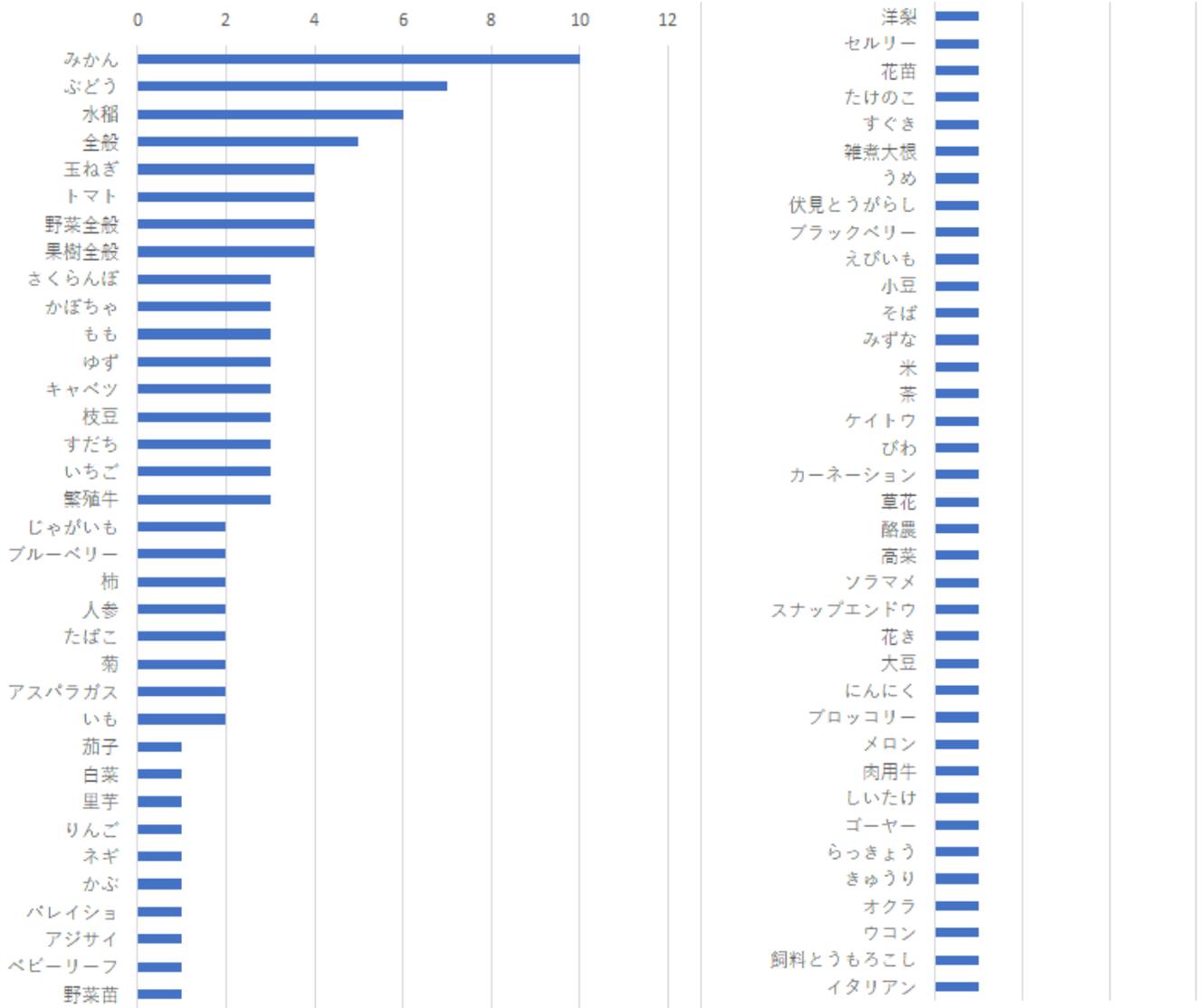
タスクの都道府県分布



- 33%をしめた長野県が最多の都道府県

都道府県分布においては長野県が33%をしめてトップとなっているが、その他は均等に分布されている。尚、対象都道府県数は15府県となっている。

援農品目一覧



今回の240タスク・作業においては合計72におよぶ援農品目となった。みかんが10件でトップとなり、ぶどう7件、水稻6件と続いている。実に幅広い品目に渡って、援農者が求められていることが確認できる結果となっている。